

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東大和どろんこ保育園
施設所在地	東大和市立野3-1255-3
法人名	社会福祉法人どろんこ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

鶏が毎日産むたまごの色の研究をする
～食べるものによりたまごの色は変化するのか?～

<テーマの設定理由>

日常的に鶏の世話や卵の収穫をしており、子どもたちにとって鶏がとても身近な存在であることが私たちの強みである。ある日、収穫した卵を食べたり、卵が割れたりした際に、黄身の色が濃かったり薄かったりすることに気づき、「あ、色が違う!」と声を上げる子がいた。この子どもの気づきをきっかけに、「鶏が食べるもの(餌)によって卵の色が変わる」という変化を体験できたら、面白い学びになるのではないかと考え、設定した。

2. 活動スケジュール

餌をよく食べる寒い時期に行う。12～3月にかけて行う。

12～1月→パプリカ

1～2月→ケール

2～3月→米

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

シャーレ、すり鉢すりこぎ、色スケール、懐中電灯
写真に撮り記録

4. 探究活動の実践

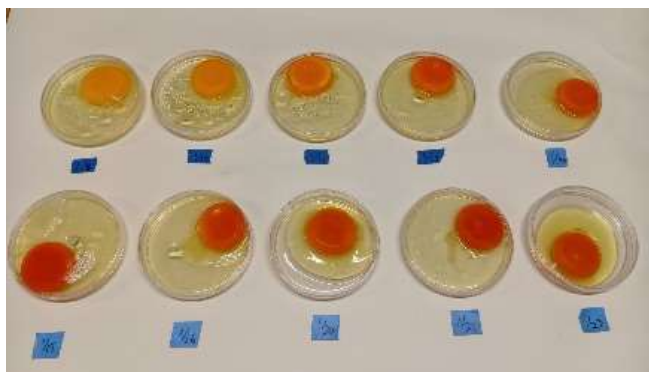
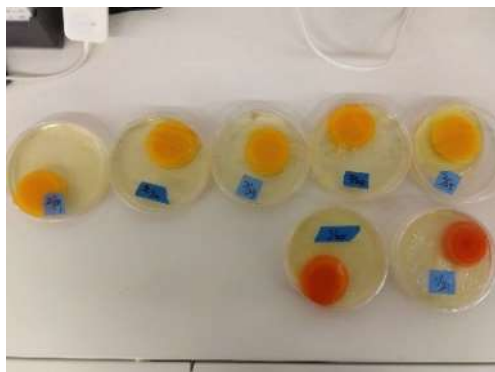
<活動の内容>

- ・パプリカを餌に混ぜ、たまごを割り、色を毎日確かめる。
- ・色を確かめるために、色スケールを使用し「何色に近いのか」を子どもと調べる。
- ・ケールを細かく粉末にし、餌に混ぜる。光を当てて色を確かめる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・卵を割って中身を確認する際、はじめは失敗することも多かったが、毎日繰り返し経験することで、少しずつ上手に割れるようになっていった。
- ・卵の黄身の色が濃くなるたびに、「また濃い色になっている！」と驚き、熱心に色を確かめる姿が見られた。また、パプリカ (の餌) によって予想以上に早く卵の色が変化することに驚くとともに、鶏の糞も赤くなっていることに気づき、変化するのは卵だけではないという新たな発見を学んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近な鶏の世話から発展した本活動を通じ、子どもたちの探究心と観察力の育ちを実感した。「米を食べない」という課題に直面した際、稲のまま与えたり砕いたりと自ら工夫して試行錯誤する姿が見られ、予想外の失敗こそが主体的な学びを深める契機になると気づかされた。また、卵のわずかな色調の変化や糞の異変にまで自ら気づくなど、活動を通して子どもたちの視野と観察眼が大きく広がったことを再認識した。